

(公社)愛知建築士会女性委員会 30周年記念事業ワークショップ

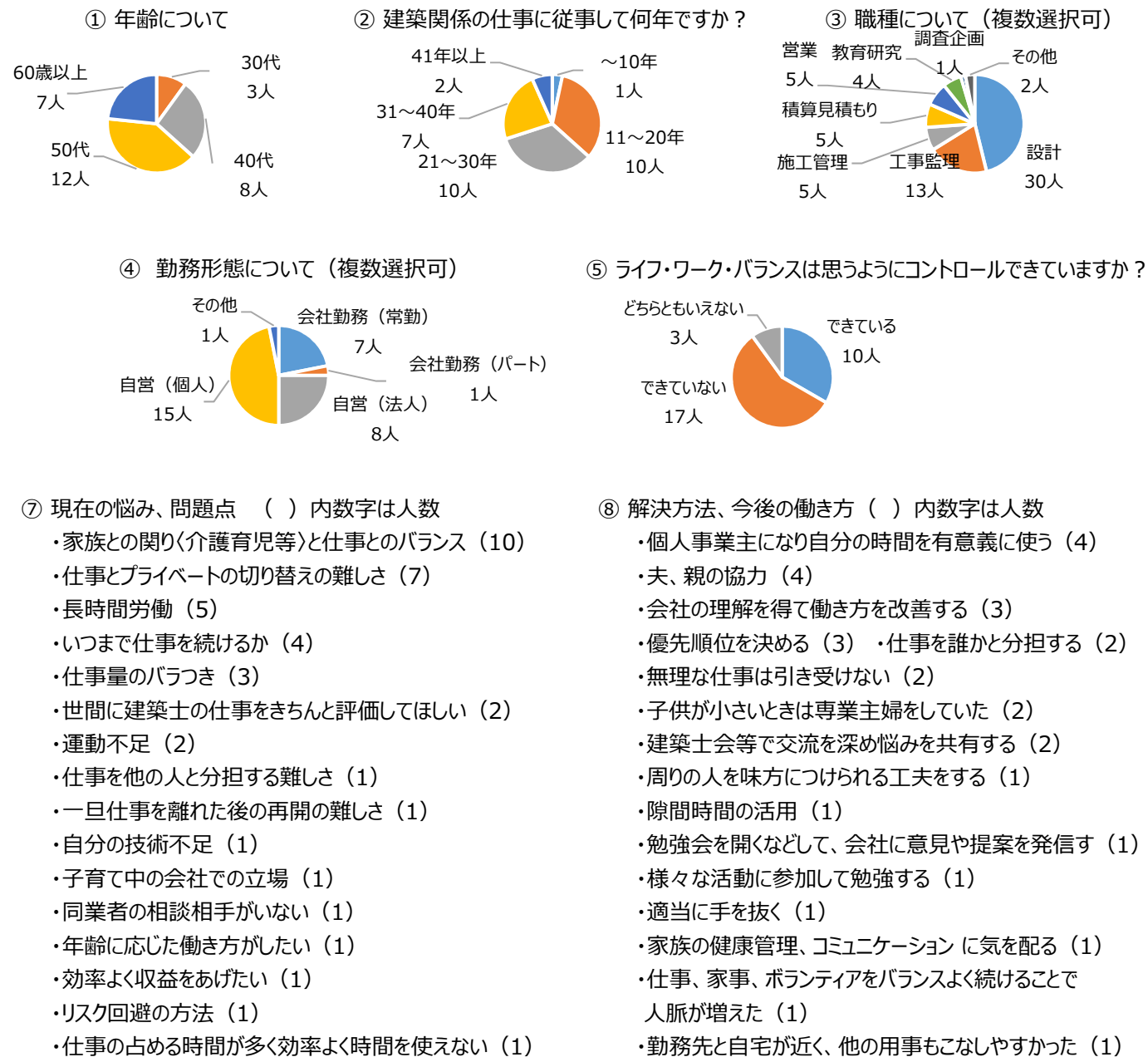
「人生を豊かに味わうために」～建築女子のワーク・ライフ・バランス～

(公社)愛知建築士会女性委員会は、1988年6月に女性部会として設立されて以来、今年で30年目を迎えました。これを機に、これまでの女性建築士の働き方を再評価し、これからの多様な生き方・働き方について意見交換を行うワークショップを開催しました。働き方改革の必要性が叫ばれている中、これまでの女性建築士の働き方を再評価し、これからの多様な生き方・働き方について意見交換を行い、女性建築士のみならず、皆が豊かになる働き方を考える機会となるよう企画しました。

開催日時 平成29年11月26日(日)
 会場 ホテルオークラ イベントスクエア名古屋 (テレビア14階)
 コメンテーター 藤岡伸子教授
 名古屋工業大学 建築・デザイン工学科/名古屋工業大学大学院 工学研究科 (比較文化・美学)
 名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター長

■ 事前アンケートについて

ワークショップ参加女性会員に事前アンケートをお願いし、働き方についての設問に回答していただきました。(回答率78.9%)



■ ワークショップ流れ

1. 働き方に関して、①現在頑張っていること ②現在の悩みや問題点 を6~7人のグループ内で発表 (1人3分程度 20分)
2. ②の解決方法について グループ内で意見交換 (40分)
3. グループ内で 発表内容のまとめ (15分)
4. グループリーダーによる発表 (1グループ3分程度 30分)
5. コメンテーターによるまとめ (30分)



■ 各グループの発表内容

Aグループ

課題：産前産後の働き方の変化にどう対応するか。

解決策：悩まない。堂々と図々しくやる。ぶれない。自分を大切にする。

会社だけにとどまらず、さまざまな人に出会う。

Bグループ

課題：時間のやりくり。時間に追われる。

解決策：資格を活かして、融通を利かせた仕事の仕方を模索する。悩みを課題に変え解決していく。先輩の背中を見て、力をもらえるのが女性委員会のすごいところ。与えられた中で活かされる環境を見つけ出してポジティブ仕事をする。断片的にしか見てない人の言葉を受け止めすぎない。

Cグループ

課題：時間のコントロールのバランスに悩む。

解決策：自分の現状を知り、出来ないことは認めてハードルを下げる。他人にどんどん家族の話をするのはよい。年々変化するのが当たり前なので深く悩まず対応。

Dグループ

課題：自分の時間がない。時間のメリハリがつかない。

家と事務所を分けるなど効率よく仕事をする。価値ある仕事を心がけ、仕事を楽しむ。第三者の手を借りられるところは積極的に借り、孤立しない。いろいろな人と出会う。

Eグループ

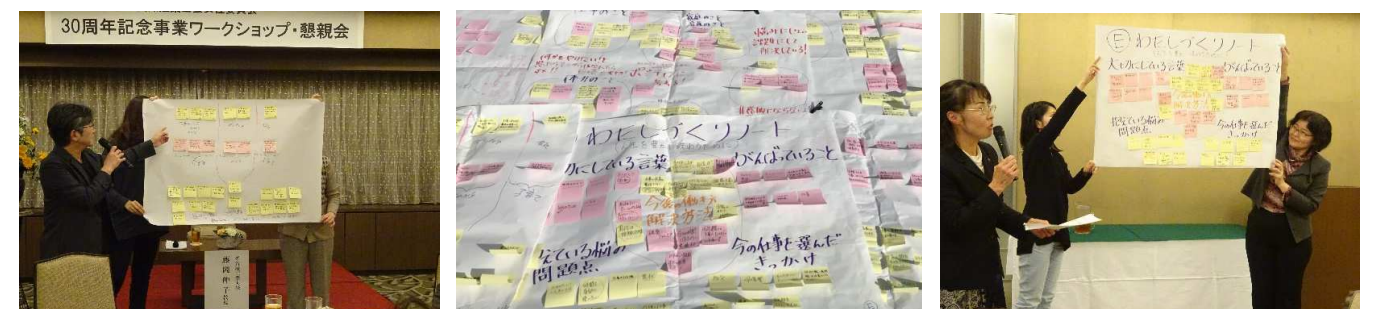
課題：自分の時間がない。時間のメリハリがつかない。

解決策：無理はしない。自信がないことは人に聞いて解決。女性ならではのメリットを活かす。夫の理解を促すため説明が必要。先輩モデルを参考にする。

Fグループ

課題：子育て世代の仕事との両立。

解決策：焦らない。細々とでも仕事を続けるのがよい。キャリアの世代は仕事が増えるが反比例して体力が衰える。キャリア世代が仕事をしたい子育て世代に外注で仕事を頼めば、お互いWINWINの関係になれる。世代をつなげる女性委員会という組織が大事。



■ ワークショップ講評 (名古屋工業大学 藤岡伸子教授)

<今回のワークショップで印象的だったこと>

1、みんな仕事が好きということ。それが一致しているというのは幸せな集団。相手が人間ということも、そこからの広がり期待できる。幸せな人生を歩んでいることは間違いない。

2、建築士という資格があるということ。工学系の例えば情報や材料の人達は会社がないと仕事が出来ない。高度なスキルを持っていても仕事をいったん中断すると産後の仕事復帰はレジ打ちと言う人も大勢いる中で5年10年ブランクがあっても元の場所に戻れる可能性があることは素晴らしい。

●時間は大事にしているつもりでも、ちょっとぼーっとするとすぐに30分ぐらい経つ。時間がなく切羽詰まったときには1日を15分に区切り、96ユニットにして管理する。後で見返すとまだまだ時間があると思えた。

●女性は片手間でも仕事出来る。そういう逃げがある。この姿勢は強みだし、そうやってずるくやっていくことはこれからの時代はすごく大事な事。男性は自分が稼いで家族を養う、この仕事をどうしてもやらなきゃという強迫観念がある人が多い。一つの方向に向かって脇目もふらずという仕事の仕方は20世紀の生き方。まだこの観念の余波を浴びていて色々な困難があるが、時代はどんどん変化している。自由になるのは大事な事。

●女性は生活に総合性を求める人が多い。建築もやりたいがそれ以外のこともやりたい。主婦の仕事もきちんとやりたい。人として豊かに暮らしていきたいと思うこと、欲張りなことは大事。男性はなかなか豊かな生活が出来ていない人が多い。男性に人間の総合性の大切さを教えてあげないとけない。

●現在、夫が働いて妻は補助的に働くという20世紀の産業社会のモデルは成り立たなくなっている。男性が一人で子どもを育てている家庭もたくさん知っている。そのような男性も子育てに仕事に奮闘することで人生の豊かさを知ってきている。女性の問題でなく、人として社会全体の問題であるという認識が重要。仕事がない、社会とのつながりがなくなると人として自信がなくなり色々問題が生じる。それは女性だけでなく男性も同じ。

●男性が働いて女性が支えるといういわゆる産業社会から出てきている家族形態は実は根が深い。17世紀に科学革命が起きてから、女性が科学から排除され男性中心の社会になっている。1960年代ぐらいから近代主義は揺らぎ、破綻してきている。ポストモダンと言われるようになった80年代90年代、ポストモダンと言われながら次の時代がどうなるものなのか具体像がないまま、ここまで来た。我々は今おもしろい時代に遭遇しているのではないか。

●今日のワークショップでの気づきを次の世代に確実に伝えていって欲しい。ダイバシティ推進というのは今高校生に話したのでは遅い。今から小学生、幼稚園児に新しい価値を伝えていかなければいけない。いろんな困難はあると思うが、自分が信じることをぶれずに、自分の軸を持ち続けてほしい。



■ 工学系の女性の現状 (名古屋工業大学 藤岡伸子教授)

●2017/10/16日経新聞 OECDジェンダーレポート
日本は相変わらずジェンダー後進国であるという指摘。基準となる指標：25.7%の男女賃金格差、80年代後半に総合職採用された女性は幹部候補になる年齢だがほとんどが離職。女性の取締役比率3.4%(先進国平均20%)このままではイスラム系の宗教的に女性が活躍できない国にも追い越されてしまう現状。

●世界経済フォーラム「国際競争力レポート」
2017(2017/9/27)8位/137カ国→9位/137に女性の社会進出の項目で77位/137であることが影響している。

●列国議会同盟調べ(2017/2/27)日本の国会議員における女性比率13.1%(142位/191カ国)
2017/9/26に女性の自動車運転が認められることになったサウジアラビア19.9%(96位)

●世界経済フォーラム「TheGlobalGenderGapReport」で示されるジェンダーギャップ指数(経済・教育・政治・保健の4分野のデータ)
2016年111位/144カ国→2017年さらに114位/144に(2017/11/2)

●OECD生徒の学習到達度調査(PISA)：15歳を対象に〈読解力〉〈数学的リテラシー〉〈科学的リテラシー〉の3分野について3年ごとに調査実施。

STEM分野(科学・技術・工学・数学)での、高等教育への女子進学割合「工学・製造・建築」13%(OECD平均24%)、「自然科学・数学・統計学」25%(同50%)、「ICT」21%(同19%)と低調。特に「工学・製造・建築」はOECD加盟国中最下位。問題なのは日本の女子は数学的リテラシーや科学的リテラシーの成績が優秀であるということ。

「日本は女子をSTEM分野に進学させるよう積極的な措置を取るべき」

OECD教育スキル局長談

●日本の流れ
1979年 国連総会における「女性差別撤廃条約」採択
1980年 アメリカではすでに「科学技術分野における機会均等法」

この分野に女性が必要とすでに認識
1985年 日本でやっと「男女雇用機会均等法」
1995年 「科学技術基本法」
1996年 「科学技術基本計画」
1999年 「男女共同参画社会基本法」
2000年 「男女共同参画基本計画」
女性の活躍を図ると明記。女性に配慮する等の言葉だけで具体策なく放置された。

2003年 内閣府男女共同参画推進本部「社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%程度になるよう期待する」と明記。

“202030”
2005年 「男女共同参画基本計画(第2次)」
女性の新規採用割合 自然科学系全体で25%(理学系20%、工学系15%、農学系30%、保健系30%)※初めて数値目標

2006年 「科学技術基本計画」第3期
ここでも数値目標がでて、足並みが揃う。
この年は画期的な年。

「平成18年度科学技術白書」刊行 OECDの国際比較データを初掲載
特別研究員制度の発足
女性研究者支援事業の開始

●工学系特有の事情
研究者に占める女性の割合の国際比較 日本は最下位
大学等の研究本務者の男女比率 工学10.2%(企業含めると5%)
理系全体の女性学生比率34.3%
工学系に限定すると13.6%(ワースト1位機械工学4.5%)

●名工大のミッション
① 優秀な女子生徒を多く獲得する(医学薬学系に取られない)
② 専門性の高い優秀な学生を育てる
③ 優秀な技術者として社会へ送り出す
④ 技術者としてのキャリアを継続できるための支援をする
⑤ O Gに再チャレンジの機会と学びを提供(O G人材バンクの構築)
ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾3期継続。

■ ワークショップを終えて

今回のワークショップは(公社)愛知建築士会女性会員38名と男性理事3名にて行われました。少人数のグループ形式にしたことで、皆自由に発言できた満足度は非常に高かったようです。先輩方の経験談やご意見はとても参考になり、今後の働き方を考えるうえで前向きになれたという感想も沢山いただきました。今後もこのようなワークショップを性別や世代、職種を超えて行っていくことが大切だと改めて感じました。